

北九州市立大学新学部開設事業の 公共事業評価の結果について（報告）

北九州市立大学新学部開設事業について、「公共事業評価に関する検討会議（外部評価）」、「市民意見の聴取（パブリックコメント）」を実施したため、この度、市民意見の聴取結果及び市の対応方針について報告するもの。

1 事業概要

北九州市立大学（以下、「大学」という）では、市内企業のニーズなどを踏まえ、高度なデジタル人材の育成などを目的として、新学部を設置することとしている。

【施設概要】地上5階建て、鉄骨造、延床面積3,944㎡

【新学部概要】

- ・学部名：（仮称）情報イノベーション学部
- ・入学定員：118名（収容定員：472名）

2 公共事業評価に関する検討会議（外部評価）の結果

資料1

- （1）実施日：令和7年8月12日（火）
- （2）結果：本計画どおり進めていくことについて異論はなかった

3 市民意見の聴取結果

資料2

- （1）意見募集期間：令和7年8月28日（木）～令和7年9月25日（木）
- （2）意見提出：提出者数3名、意見提出数6件
- （3）結果：計画の修正が必要な意見はなかった

4 市の対応方針

資料3

「2 検討会議の結果」と「3 市民意見の聴取結果」を踏まえて、計画どおり事業を実施することとしたい

5 市民意見の聴取結果及び市の対応方針の公表

- （1）閲覧・配布
期間：令和7年10月16日（木）～令和8年1月15日（木）
場所：政策局総務課、総務市民局広聴課、各区役所総務企画課及び出張所
- （2）市のホームページへの掲載
期間：令和7年10月16日（木）～令和9年3月31日（水）

6 今後の予定

- ・令和7年度：実施設計等
- ・令和8年度：建築工事（着工）
- ・令和9年度：新学部開設

公共事業評価に関する検討会議における留意点とその対応
(対象事業：北九州市立大学新学部開設事業)

市の対応方針（案）		
計画どおり実施		
	公共事業評価に関する 検討会議での意見	市の対応方針（案）
(1) 旦過市場の雰囲 気への配慮につ いて	北九州市の財産である旦過市場の 雰囲気を守られるように、事業を進 めていただきたい。	今年度、大学と市場で実施する実 施設計において、これまでの旦過市 場の雰囲気を守れるよう、大学及び 市場と協力して取り組んでまいりた い。
(2) 大学の自主財源 の確保について	企業版ふるさと納税制度などを含 め、市も大学と一緒に、大学の自 主財源の確保に努めていただきたい。	企業版ふるさと納税制度を活用す るなど、市もしっかりと支援し、大 学の自主財源確保に向けて取り組ん でまいりたい。
(3) 事業費の増額へ の対応について	資材価格等の高騰が続いており、 事業費増の可能性が高いことを念頭 に置いて対応を考えていただきたい。	今年度の実施設計において、工期 の短縮や整備費の圧縮など、より一 層のコスト削減が図られるよう、支 援してまいりたい。
(4) 建物完成後の維 持管理に対する 工夫について	敷地が狭いことから、完成後の改 修・修繕工事を踏まえ、市場と調整 のうえ、適切な維持管理ができるよ う工夫していただきたい。	今年度の実施設計において、完成 後の改修工事等を含め、適切な維持 管理ができる設計となるよう、支援 してまいりたい。
(5) 学生の駐輪場の 確保について	大学と相談のうえ、学生用の駐輪 場の確保を検討していただきたい。	大学からは、交通利便性の高い都 心部に設置する学部のため、基本的 には通学等は公共交通機関の利用を 想定していると聞いているが、自転 車を利用する場合は、既存の駐輪場 やシェアサイクルなどを活用させる ことや、ルール・マナーの遵守を徹 底させることを大学に申し伝える。

提出された市民意見の概要及びこれに対する本市の考え方 (対象事業：北九州市立大学新学部開設事業)

1 意見募集期間

令和7年8月28日（木）から令和7年9月25日（木）まで

2 意見提出状況

(1) 提出者数：3名

電子メール	郵送	F A X	持参
2名	0	0	1名

(2) 意見提出数：6件

3 意見の内容

新学部の教育内容等について：2件

番号	意見の概要	本市の考え方	事業への反映
1	開設予定地の小倉北区周辺の西日本工業大学も新たな学科として情報デザインに関する学科開設を北九州市立大学よりはやく行われるようで、差別化ができるのかが気になる。	経済産業省の推計では、2030年に向けて全国で約45万人のIT人材が不足すると予測されている。さらに、大学が市内企業に実施したアンケート調査で回答のあった108社のうち、その7割がデジタル人材を求めている。 そのため、大学は大学間で競合するのではなく、協力して人材を育成・輩出し、市内企業のニーズ等に対応するとしており、市としても、このような取組を支援してまいりたい。	大学の取組を支援する
2	(仮称)情報イノベーション学部でのカリキュラムや情報処理推進機構(IPA)認定の資格はじめ取得できる予定の資格の内容、教職課程(高校情報科)、他の大学で既に実施されている、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの導入や(仮称)大学院情報イノベーション研究科の設置予定があるか等基本事項である内容が掲載されておらず、情報イノベーション学部長ご就任予定の教授の氏名も掲載されず、内容と同学部の教育方針が見えないと感じた。九州唯一の「市立大学」として北九州市民に北九州市立大学及び北九州市公式ホームページに公開して頂きたい。	新学部において、取得可能な資格については、大学のホームページの新学部特設サイトに掲載している。また、数理・データサイエンス・AI教育プログラムについては、大学では2022年度から国(文部科学省)の認定を受けており、新学部も対象となる。 教職過程を含むカリキュラムや大学院の設置、新学部長の就任等については、現在検討しており、お知らせできる状況になり次第、大学のホームページ等において随時情報提供を行っていく。	反映を予定している

建物の整備内容について：4件

番号	意見の概要	本市の考え方	事業への反映
1	大学の建設は、お金をある程度かけたほうがよい。 ドアの開閉音が大きいと、学習や研究の環境に悪い影響がでるため、引き戸にするなど工夫があったほうが良い。	今年度に大学等で実施する実施設計において、新学部の建物を学習しやすい環境に配慮した設計に努めるよう、市としても支援してまいりたい。	反映を予定している
2	若い人が学ぶ環境として、体を動かす設備（例：ジムなど）、図書館、カフェテリア、学生寮等がないが、これに対して計画はどうなっているのか。	大学では、今回整備する建物は、新学部の教育に必要な設備を確保しており、体育館や図書館等の設備について、必要に応じて北方キャンパスの施設を共用することを検討している。 また、小倉都心部に立地しており、周辺の民間施設等の利用も可能であると考えている。	—
3	利便性の良い立地やデジタル人材の育成についてはよく理解できるが、利便性が良い半面、治安対策が必要である。北方キャンパスやひびきのキャンパスより一段高いセキュリティが学生生活に求められると思われる。	大学では、新学部の建物（2～5階）には学生や大学関係者しか入場できないようなセキュリティ対策を講じることとしている。 また、新入生に対して防犯等への注意喚起や防犯に関する講習会の開催、パンフレットの配布、学内掲示による注意喚起など、学生の防犯意識の向上を図る取組を継続して行うこととしており、市としても支援してまいりたい。	反映を予定している
4	小倉駅周辺に遊休施設が多いので、そこを活用してもらいたい。	新学部の設置にあたっては、大学において既存施設を含めた候補地の検討を行い、新学部に必要な施設規模（延床面積約4,000㎡）や教室として必要となる採光条件などの要件を満たす既存施設はなかった。	—

公共事業評価に関する検討会議及び市民意見を踏まえた市の対応方針
(対象事業：北九州市立大学新学部開設事業)

【対応方針】

計画どおり実施

【対応方針決定の理由】

北九州市立大学（以下、「大学」）では、国のデジタル・グリーン等の高度専門人材の育成や市内企業のニーズなどを踏まえ、情報工学の先端技術を駆使し、DXの推進や社会課題解決に寄与する高度デジタル人材の育成などを目的として、新学部を設置することとしている。

新学部の開設により、高度なデジタル人材の育成や市内へ輩出・供給が可能となることで、市内企業の成長と地域貢献に繋がることが期待できる。

さらに、新学部開設は、理工系の先端的な教育が受けられる環境づくりを推進することなど、北九州市・新ビジョンで掲げる「彩りあるまち」の実現に寄与する。

新学部の建物は、旦過地区土地区画整理事業地内に大学と旦過総合管理運営（株）が共同で建設するものである。

新学部の建物が、モノレール旦過駅に隣接する非常に利便性の高い場所に整備されることにより、都心部に 500 人の学生等が通う場所が誕生すること、また、若者の都心回帰や回遊性の向上、まちの賑わいづくりに繋がることが期待できる。

また、大学のさらなる魅力向上や市の IT 力の底上げなどによる産業力の強化、市内への新たな IT 企業等の進出が期待されることなどから、本事業は、市にとっても次世代に向けた重要な投資と考えている。

なお、公共事業評価に関する検討会議では、「本事業を計画どおりに進めることについて異論はない」とされ、事業実施にあたって留意すべき点が意見として挙げられた。

これらの留意点を踏まえた市の対応方針案について市民意見を募集した結果、新学部の教育、建物の整備等に関する意見が寄せられた。なお、計画を修正する意見はなかった。

以上のことから、検討会議で示された留意点や市民から寄せられた意見を踏まえ、計画どおり事業を実施することとする。

平面図及びイメージパース

